

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 113 号	氏名	依田 健志
学位審査委員	主査 大園 恵幸 副査 高木 正洋 副査 小路 武彦		
論文審査の結果の要旨			
<p>1、研究目的の評価 本研究は、マラリアコントロールプロジェクト後のマラリア予防、罹患時の対応などに関する住民への事後評価を行い、継続して効果的なマラリアコントロールを目指したもので目的は十分に妥当である。</p> <p>2、研究手法に関する評価 インドネシア、ロンボク島及びスンバワ島においてプロジェクト終了後の診断と治療、蚊帳と殺虫剤浸漬状況、健康教育、プロジェクト全般への住民への評価を KAP 研究に基づいた 42 項目を調査し、統計学的に解析しており研究手法は妥当である。</p> <p>3、解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、マラリアコントロールプロジェクト後ロンボク島では、有意にマラリア罹患率が減少していたがスンバワ島では減少は認められなかった。その要因として住民へのマラリアの原因、症状、予防に関しては正しい理解が持続していたが、蚊帳の殺虫剤の使用頻度、経済状況、保健所へのアクセスなどの違いが明らかになり、今後のマラリアコントロールに関する研究の進展が大いに期待される。</p> <p>以上のように本論文は、マラリアに関する感染症予防学研究的発展に貢献するところ大であり、審査委員は全員一致で博士(医学)の学位に値するものと判断した。</p>			